

2018年度
学校関係者評価委員会第1回議事録

日時：2018年9月25日（火）18時30分～20時00分

場所：東京 YMCA 医療福祉専門学校 15 教室

出席者：吉野 たけし氏 小泉 昌広氏 永井 純氏 山野 晴雄氏
列席者：湯浅 慶 八尾 勝 倉持 有希子 中浦 俊一郎 林 恵子
 村上 剛

I. 聖書日課

Tokyo YMCA Daily Message の本日の聖句とその解説を村上副校長が朗読した。

II. 議事

1. 開会のあいさつ

八尾校長より、本委員会の進め方について、第一回の委員会でご意見を頂き第二回の委員会ですそれについての学校側の返答をする旨の説明がなされた。

2. 各委員の自己紹介

出席委員および列席者が近況報告などし、自己紹介を行った。

(1) 山野委員

地域の方々の居場所づくりに携わるようになった。

(2) 小泉委員

病院の人材育成のために、写真入りマニュアルを作成している。

(3) 永井委員

4月に立ち上げた病院は、顔認証システムやスマホカルテ等最新の機器を備え、兎や山羊を飼っているというユニークなもの。EPAの看護師候補生の受け入れも始めた。ベトナム、ラオス、カンボジアとの連携も深めている。

(4) 吉野委員

今までと変わるビジネススタイルの中で働く学生達にどのような教育をするか業界の人々と考えている。国立市の地域スポーツ事業を通して地域活動に携わっているので、YMCAの学生とのコラボも期待している。

(5) 湯浅学院長

日本の介護人材の育成の重要性を自身の家族の介護を通じて強く感じる日々である。

(6) 八尾校長

全国の介護福祉士養成校の学生数が減っている中、外国人の入学は昨年500名から今年は1,000名へと増えている。先日、全国の介護協の中でも外国人受け入れで先行事例で

ある和歌山YMC Aに日本のYMC Aの介護福祉系の学校8校が集まり、担当者会議が行われた。多くの学びが得られた。また、高校・就職先の高齢者施設・養成校の3者が連携して人材育成をするシステムを考えている。

(7) 村上副校長

一昨日学生がYMC Aのチャリティーイベントのボランティアとして活躍している姿が印象的だった。参加者は約1,500名の大きなイベントだったが、その中で学生はとても自然にそして積極的に役割を果たしていた。

(8) 林事務長

留学生とEPAの外国人受け入れなど担当している。

(9) 倉持介護福祉科学科長

昨年度初めて国家試験が実施された。試行錯誤したが、今年はその経験を活かしシステムティックに対応していく。留学生が1名入学した。今後留学生が増えた場合の受け入れについて考えている。

(10) 中浦作業療法学科学科長

今年度は学生がボランティア活動で地域に入ることを進めている。学生は各自いろいろなボランティア活動を選択、体験している。それぞれが経験したことを、学年を越えて共有する機会を設けて、学び合うというスタイルになっている。2020年度入学生からのカリキュラム変更に対応すべく準備をしている。

3. 議長の選出

委員会の規定に従い議長を互選した結果、吉野委員が議長に決定した。その後、議長の司会により会が進められた。

4. 自己点検結果要約版の説明

村上副校長より資料「自己点検結果要約版」を用いて要点の説明が行われた。

5. 質疑応答・ディスカッション

以下のような質疑応答があり、感想・意見・提案などが述べられた。

(1) 山野委員

・学生募集については、高校生の希望者は全くいないわけではない。高校の先生からの紹介の影響力は高校生には大きい。また、「人間と社会」の授業の受け入れや、施設の紹介をできますということ、高校にアピールしたらよい。YMC Aはやはり多摩地区で人を育て就職させていくというのがよいと考える。

・新たに導入される高等教育の負担軽減策において定員充足率の規定があるようだが、この視点から考えると、現在の定員数80名を維持することは厳しいのではないか。もし、対象校でなくなると、高校側から見ると進学先の選択から外れてしまう。

・国家試験100%合格を目指し、大学ではできない、学生一人一人に対しての丁寧な指導、とくに学習支援しないときびしい学生もきちんと教育していることをアピールすることは大

切ではないか。

・職業教育において、「職業人としてのモラル」をどのように養成するかが問題となっている。YMCAのスクールモットー「互いに愛し合いなさい」に基づき職業教育に接しているということはアピールしてもよいのではないか。

(2) 八尾校長

・今年度は高校訪問を強化している。引き続き高校の先生との連携を強めていきたい。

・「人間と社会」でのインターン提供については、協力施設に「実現しないかもしれないが準備はしてもらおう」と依頼する事や、受け入れ人数が少ないという制約の中で実現していないが、継続的に実現に向けて検討をしてゆく。

・高等教育の負担軽減策の定員充足率の件に関しては、そもそも今までの定員管理の仕方が大学と専門学校の間で違いがあるため、原則大学には適応されるが、専門学校は別のルールになる可能性があるようである。本校で実際に対象となる学生は少ないのではないかと推測している。手続きを考えると、定員を下げることはすぐできるが、上げるには申請してから1年以上の時間がかかる。もう少し、ルールが確定するまで、見守りたい。対象校となれるようにしたい。

(3) 小泉委員

・実務者研修の件、無資格で働いている人も多いと思うが参加状況はどうなっているか。卒業生へのアプローチも効果があるのではないか。

(4) 村上副校長

・昨年度とあまり変化がない。近隣の対象施設をリストアップして募集に回っている。

(5) 林事務長

・実務者研修の募集においては、施設側から「資格取得を見据えずに、現状のままの立場で働くことを良しとするスタッフもいる」との話を聞いている。

(6) 八尾校長

・今年度後半はさらに実務者研修の募集体制を強化して臨む。卒業生の紹介はまだ少ないが効果はあるので、今後も期待している。

(7) 永井医院

・自身が所属する病院でもベトナムからのEPA訓練生を2名受け入れ始めた。普段の働きだけではなく、このところ増えている外国人の患者さんの通訳としても活躍している。日本人スタッフがEPA研修生に業務を教えることはそのスタッフの勉強にもなっている。経営的にも重要と考えている。YMCAの47名はかなり大人数であると思った。

・チャリティーイベントで1,000名以上の参加があったとのことだったが、自分の病院のイベントで広報を地域広報誌に変えてみたところ、前年の3倍以上の参加で1,000名規模になるという経験をした。地域に根差した活動には、有料広報媒体でなくてもよいと思う。

(8) 吉野委員

・YMCA独自の給付型の奨学金が実施されたことは素晴らしいと思う。本校でもいつかやれるようになりたいと思った。

・YMC Aが教育をしっかりとしているのは、周辺地区の人々は知っているのではないかと思う。「教育」と「学生募集」は切り離して考えないと、経営はうまく行かないかもしれない。

・学校運営には「継続性」が重要であると考えます。E P Aは永続的な制度と考えてよいものなのか。

(9) 八尾校長

・E P Aは2国間の協定なので、国の関係がある限り続くので、取り消すのは難しいと考えられる。

(10) 湯浅学院長

・学生募集に理念を持ち出しても成り立たない。それよりもどうすれば集まるかと言う現実の問題である。18歳人口の激減少は大きな問題であり、合理的な募集方法が必要である。多摩地区に集中した募集は見直しが必要ではないか。大胆な策をもって学校経営をしなくてはならないのではないかと考える。

(11) 山野委員

・介護福祉科の訓練生の動向はどのようになっているのか。

・YMC A独自の給付型の奨学金は募集でアピールした方がよい。

(12) 八尾校長

・訓練生は昨年度都内で147名だったのが、今年度は79名に減少している。募集は年明けになるが、社会人が学習しやすいように授業の終了時間を従来より早めに設定するようにして募集を行う。

・その他のインフォメーションであるが、介護福祉業界の職能団体の東京都介護福祉士会の副会長2名が本校の卒業生であり、テキストへの執筆や研修会の開催などで活躍をしている。

6. 閉会のあいさつ

八尾校長より、本日の委員の方々のご意見、そしてディスカッションを踏まえ次回の委員会でまとめたいと思っている旨と、委員の方々への感謝の辞が述べられて閉会となった。

Ⅲ. 次回日程確認

2018年11月14日(水) 18時30分～

記録：村上剛